

教えて! ドクター

Q&A

安静時に突然亡くなる心臓の病気で、

ブルガダ症候群は1992年に報告された遺伝性不整脈の一つで、日本人をはじめとするアジア人に多く、40〜60歳で発症し、中年の男性に圧倒的に多く、疫学的に日本では1000人に一人程度に発症し、心室細動といった致死的不整脈や突然死を引き起こすのは、それまで症状のなかった人のうちの1%程度と言われています。突然死の家族歴を有する場合も多く、何らかの遺伝的な異常が関係しているそのほとんどが心臓のナトリウムイオンチャネルの異常であることもわかっています。また男性は女性の9倍で圧倒的に男性に多く、また年齢の上昇とともに有病率が高くなるので、男性ホルモンの関与も示唆されています。

検査の心電図でブルガダ型心電図を呈するものは0.02〜0.1%で認められますが、その中でも0.2〜4%の確率で重大な発作を引き起こす人がいることも事実としてあります。

健康診断で「ブルガダ型心電図」「ブルガダ症候群の疑い」と判定診断されても、過度に恐れる必要はありませんが、ブルガダ症候群との鑑別は必要ですので、一度循環器専門医の受診をお勧め致します。

健康診断で「ブルガダ症候群の疑い」と指摘され、調べると突然死するところがあると書いてあり、すごく心配しています。どうすればいいのか教えてください。

ブルガダ症候群は心電図で不完全右脚ブロックを伴う右側胸部誘導でのST上昇という特徴的な心電図を呈し、致死的な不整脈(心室細動)を引き起こし死に至る病気で、臨床像としては、以前から言われていた「ポックリ病」の原因のひとつで、睡眠時や



北村内科クリニック
理事長 北村 秀綱

神戸大学医学博士。日本内科学会内科認定医。日本循環器学会循環器専門医。日本抗加齢学会正会員。高濃度ビタミンC点滴療法学会正会員。神戸大学病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。クリニック開院以来、循環器、呼吸器疾患からエイジングケアまで幅広い年齢層の患者様が数多く来院される。